

【地域コミュニティ・肉子町】

地域づくりは 子や孫への投資

私が地域づくりに関わりはじめて22年が経過しました。22年前、当時私は20歳。地域づくりのイロハも分からず、役場職員ということで「石畳を思う会」に誘われ、水車復元作業を行ったことがこの間のように思い出されます。山からの間伐材の搬出、茅の屋根葺き作業など、水車づくりにおいて特に技術もない私でしたが、皆で思いを共有し、汗を流した時間は貴重なものでした。今、石畳地区の地域づくりの輪は、地域全体へ活動も広範になっていますが、私の中の地域づくりの原点は、そこにあると思っています。

「石畳は力ネにもならんことをようやるの。どうせなら儲けるような事をせんと」。これは、他地区の人から過去に幾度となく聞かされた言葉です。我々の活動の主体、景観や伝統文化、自然環境の保全は、お金儲けにはなりません。

考えてみれば石畳は、手間のかかる事ばかりやってきました。水車づくりをは

じめ、道案内標識、石積み、水車まつりのテーブル・椅子、器など……。簡素化しようとするばどうにでもなるのに、手作りにこだわって、時間と労力をかける。決して裕福ではない石畳の人たちが、忙しい農作業をほったらかして地域づくりに励む姿は、見る人によつては馬鹿らしいと映るのも不思議ではありません。正直、その言葉に揺れた事もあります。今では力ネにならない経験が私の財産であると確信しています。

今、担い手不足などによつて地域コミュニティの崩壊が危惧されています。百年に一度の不況といわれる時代にあつて、地域づくりに取り組む環境は厳しくなると思われますが、今後も「子や孫への投資」という石畳を思う会の活動方針のもと、10年先、20年先の豊かな石畳を夢見て地道な活動に取り組んでいきたいと思っています。



しだれ桜の下で石積みに励む地域の人々

宝泉 武徳
石畳を思う会

